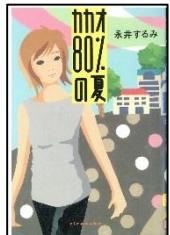


VOICE

図書館でボランティア活動をしてくれた中高生のみなさんに、オススメの一冊を紹介していただきました！
(編集にあたり、趣旨は変えずに一部修正しています。)

『カカオ 80%の夏』 永井 するみ／著 理論社



私、三浦凪。好きなものカカオ 80% のチョコレートとミステリー。独特の雰囲気と鋭い推理を持った女子高生凪が、失踪したクラスメイトを探しに出る。続編『レッドマスカラの秋』もおすすめです。 (ペンネーム百さん)

『ブラッドライン』 知念 実希人／著 新潮社



父親が手術で亡くなったことをきっかけに、病院の裏側に足を踏み入れた浩一。次々に起こる殺人事件を浩一は解決できるのか。最後は波乱のどんでん返し。一気読み間違いなしです！

(ペンネーム S・S さん)

●ご感想、本の紹介など、下記のメールアドレスまでお寄せください。

メール投稿の際は、件名に YOUNG-JIN、本文に年齢・ペンネームを明記してください。

●本の表紙掲載については、出版社の許諾を得ています。編集・発行 長岡市立中央図書館

(0258-32-0658)

図書館 HP <http://www.lib.city.nagaoka.niigata.jp>

図書館メールアドレス lib@city.nagaoka.niigata.jp

スマホ
サイト→



←携帯
サイト

WE'RE
YOUNG-JIN

長岡市立中央図書館ヤングアダルト News

Vol.49 2017.11

推理小説



『亜愛一郎の狼狽』 泡坂 妻夫／著 東京創元社



ハンサムなのにどんくさくて変わり者のカメラマン亜愛一郎。しかし事件に出くわした時の彼は、論理的な推理で謎を紐解く名探偵なのだ。名探偵なのに小心者で、犯人を追及することや推理を披露するのが苦手だったりと、コミカルな雰囲気でありながら、トリックは本格的。そのギャップが楽しい亜愛一郎三部作の一作目。

『オリエント急行の殺人』アガサ・クリスティ／著
山本 やよい／訳 早川書房



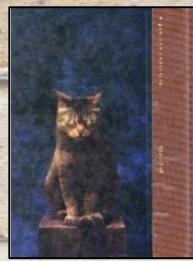
急きよロンドンに帰るため豪華列車オリエント急行に乗ることになった、探偵エルキュール・ポアロ。列車内で、アメリカ人の富豪が殺される事件に遭遇する。その列車は、季節はずれにもかかわらず、なぜか乗客で満員だった…。一見何の関わりもないよう見える人々が、次第に事件に向かって収束していく様子は、圧巻です。

『レジまでの推理 本屋さんの名探偵』
似鳥 鶴／著 光文社



ある日、7冊の本が彼女から届いたというお客様が、その7冊に隠された謎をどうしても知りたいとご来店。そして店員の青井くんは、謎を解くことに…。そこには一体どんな謎が隠されているのか？（「7冊で海を越えられる」より。）すべての話の舞台は本屋さん、そして謎を解くのは書店員。書店ならではの謎やトリックに引きこまれること間違いなし！

『銃とチョコレート』 乙一／著 講談社



富豪の家から宝物が盗まれた。怪盗ゴディバの20回目の犯行だ。リンツ少年は、偶然手にしていた地図が謎解きのカギになると確信し、名探偵ロイズへ手紙を送る…。かわいい探偵モノかと思ひきや、物語は予想外な展開に。ハラハラドキドキで一気に読みます。

『くらのかみ』 小野 不由美／著 講談社



夏休み、大伯父に呼ばれた親戚たちが、本家に集まった。みんなで本家を継ぐ話し合いをするといふ。その間、遊んでいた子どもたちは「四人ゲー

ム」を藏の中ですることに。するといつの間にか子どもが一人増えている。でもはじめからみんないた気がして、誰が増えたのか分からぬ。そのうち大人たちの間でも不可解な事故が…。自分の親を守るために、子どもたちが謎を解く！

『月蝕姫のキス』 芦辺 拓／作 理論社



高校生の暮林は、何事も論理的に考えぬかなければ気が済まないという、厄介な性格の持ち主。ある日、学校の帰り道に奇妙な殺人事件と関わってしまうことから、探偵のような毎日が始まってしまう。そして考えれば考えるほど、犯人は一人の少女に行きつく…。それは、クラスメイトの行宮美羽子。次から次へと起くる不可解な殺人事件。そしてそこに関わる行宮美羽子。読み始めたら目が離せません。

『天才たちの値段』 門井 慶喜／著 文藝春秋



美術品の真贋を“味覚”で見極めるという青年、神永美有。今回彼が、ある画商に招かれ目にしたのは、ボッティチエッリの『秋』。神永は真作と断定するが、『ヴィーナスの誕生』や『春』とはまるで違う画風。果たしてこの『秋』は本当に真作なのか。絵に隠された秘密とは？表題作の他4編収録。